

# 1. 評価結果概要表

作成日 成 19 年 9 月 21

## 【評価実施概要】

事業所番号	3171600228		
法人名	社会福祉法人 萌生会		
事業所名	グループホーム なごみ		
所在地	鳥取県西伯郡伯耆町長山171 (電話) 0859-62-0100		
評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1YNT第10ビル207		
訪問調査日	2007/8/23	評価確定日	2007/9/21

## 【情報提供票より】(19年7月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 9 月 30 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	11 人	常勤	11 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 11

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建て	1 階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	72,000 円
敷金	有( ) 円 <input type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円 <input type="radio"/> 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	380 円	昼食 450 円
	夕食	500 円	おやつ 50 円
	または1日当たり		1,380 円

### (4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.7 歳	最低	68 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人萌生会 伯耆中央病院、篠原歯科医院
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設して5年、自然に囲まれた、のどかな環境の中に建物は立っている。庭に畑もあり、散歩するのも十分な敷地である。近くに民家もあって、地域と交流し易い場所にある。近隣に法人の他の施設や医療機関が有り、緊急時の連絡体制も整っている。退去者は10名と少なく従って高齢化に伴って介護度が高くなり、ケアの質・量共に大きく変化してきている。職員は計画作成担当者を中心に勤務体制の見直しの検討・実施、地域との連携・ケアの質の向上など、日々皆で模索しながら奮闘しておられる様子が印象的であった。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の主な改善課題の一つに勤務体制があげられていたが、この1年間、試行錯誤を繰り返しながら、夜勤帯の時間の短縮に取り組み職員から、以前より安心して勤務できるようになったことと皆の話し合いで改善できた喜びが語られている。また地域との交流も課題であったが、ちまき作りなどの行事に来てもらったり、毎月1回町主催の「認知症ケアの家族の会」に参加し、地域の家族の方と交流するなど、積極的に関わる努力をされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全体で評価の意義と狙いを確認して、自己評価に対して意見を述べ、自分達のサービスの現状に満足することなく課題を見つけ取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	民生委員、家族会の方、役場の方にも参加いただき2ヶ月に1回会議は開かれている。事業所の運営状況を報告し、検討、助言をしてもらいいろいろな方の意見を聞き入れ、サービス向上に努めている。具体的に「認知症老人の家族の会」の情報提供や「ちまき作り」のボランティア派遣など地域活動のきっかけとなっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の生活や健康状態について、毎月の便りや電話、面会時に報告されており、家族は概ね安心しておられ、意見・苦情など話し易い雰囲気を作る努力をしておられる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近所の方には、ホーム側から声かけや、ホーム便りを配ったり、ちまき作りなどの行事参加を呼びかけたりして、ホームの事を理解して頂けるよう働きかけをしている。学生に職場体験をしてもらったり、ボランティアの受入れもされている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から玄関の分かり易い所に理念を掲げて、理念の実現に向け取り組んでいるが、理念に地域密着の観点が明記されていない。	○	「地域の中でその人らしく生活できる事を支えるケア」の具体的なイメージが持てる理念を職員で作りに上げて欲しい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定期的に職員間でミーティングや勉強会を開催し、理念の共有・実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で開かれる彼岸市や役場の作品展、「認知症老人の家族の会」の例会に参加し、地域の人々との交流に努めている。近隣住民へ広報誌の各戸配布なども行なっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員ミーティングで、評価の意義と狙いを確認しあって、自己評価を行なっている。外部評価の結果についても改善のための検討や実践を行なっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、家族会の代表、町役場担当、職員等で構成する運営推進協議会議が2ヵ月に1回開催されており、事業所の運営状況を報告し、助言・要望・情報提供などをしていただきながら、サービス向上につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に出席の町の担当者の情報提供や介護相談員の月2回の来所が、事業所の地域活動のきっかけとなり、広がりを見せている。また、町内の認知症ケアの家族の会に参加させてもらい、家族の方の声を聞き、意見交換などを行い、ホームの活動にも生かすようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月送付するサービス利用明細書に近況報告のスペースを作り、担当者が記入して送付している。また、定期的に「なごみ便り」を発行している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付の案内を玄関に掲示し、また、毎月の近況報告書でも呼びかけて、話し易く、いい易い雰囲気を作るよう心掛けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の方にきちんと説明をして、理解してもらうようにしている。同一法人の特別養護老人ホームからの職員の移動が多いので、その場合には利用者の情報を事前に伝え、支障の少ないよう配慮している。		家族に職員が替わった事の知らせが無いとの不満が一部で見られる。家族の方への近況報告書や面談時、電話など、知らせる努力が望ましい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での勉強会、講習会参加している。外部研修にも参加するようにしている。「認知症老人の家族の会」の例会や、職員が日々の体験をミーティングで話し合う事が最適な学びの場となっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協会が主催する相互研修に参加したり、他の施設への研修を行ったりしている。サービスの質の向上に向けた取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居される前に何度も入居予定者の家に伺い、本人と家族の要望を聞き取り、サービスについても話し合いを持ち、入居していただくようにしている。また、利用者や家族にホームに足を運んでもらい、職員と顔なじみの関係を作り、利用に向けて安心してもらえるようにアプローチしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一方的なサービスではなく、本人の思いや不安などを理解するように努め、職員は利用者を人生の先輩であるとの認識を共有しており、共に過ごし、学び支え合う関係作りを心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で何気ない行動、言葉の中から本人の希望・意向を推し、思いに答えられるよう努めている。また家族ともよく話し合い情報を頂くなどし、希望を聞いてアセスメントシートに記入して職員が共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当スタッフを中心に、サービス担当者会議で職員全体で意見を交換し、家族の意見を取り入れながら、かいごけいくを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は設定した期間での見直しは行なわれているが、変化に伴う見直しが不十分になっている。	○	変化に伴う計画の見直しをしなければならない事は課題として承知されている。今後体制の見直し等を含め検討される事を望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	関連法人の医療機関へ治療の為通院支援をほぼ毎日行なっている。また、本人の希望を取り入れ、外出支援したり、外泊希望を受け入れるなど、柔軟に支援されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の多くは関連法人の医療機関が、かかりつけ医となっているが、利用者や家族の希望に応じて他の医療機関の受診指導も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者・家族とよく話し合い、主治医や関係利用者との連携を取り、職員で方針を共有して取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報については、きちんと管理してある。職員は利用者のプライバシーを損なわないよう心掛ける事を徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日、朝食事に、その日の予定(病院の受診など)を話題にし、外出などの希望を聞いてそれに対応できるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	主食以外は関連法人の特養の栄養師さんがメニューを考え作られている、盛り付け、配膳、後片付けを利用者で行っており、職員も同じテーブルで食事している。また、自分達で作った野菜を使って味噌汁を作ったり、時にはおやつを作ったりもしている。		おやつ作り等、利用者の方と共に作る機会を今後も増やされる事が望ましい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応の入浴時間は決めてあるが、当日のスケジュールや体調、気分等で臨機応変に対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の好きな事ができるよう、声かけをするなどしている。畑仕事、庭木の剪定、洗濯、炊事など利用者の経験を生かす場を作っており、職員が教えてもらう事も多い。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物、散歩、ドライブなどその都度希望に応じて対応し外でも楽しく過ごせるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関には鍵を掛けず、自由に入出入り出来る様になっている。玄関に通じるリビングに常に職員が待機しており、必要に応じて付き添い、声掛けを行なっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地元の消防署の指導で避難訓練を年2回行なっている。関連法人の緊急時応援体制や緊急連絡体制も作られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を用いて、1日の食事、水分摂取量が把握されており、関連法人の特養の管理栄養士による指導が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は利用者の意見を聞いて、一緒に模様替えや配色替えを行い、混乱することがない様に配慮している。また、手作りの飾りつけがされていて、家庭的な雰囲気になっていた。季節の花を飾るなどして、季節感のある空間作りを心掛けている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	前回の外部評価の指摘を検討し、利用者が大切にしている思い出の品物(掛け軸、写真、位牌、植物など)を持ち込むように勧めており、その人らしさの伺える居室となっている。		